

平成29年8月8日

上場会社名 明治ホールディングス株式会社
 コード番号 2269 URL <http://www.meiji.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松尾 正彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 IR広報部長 (氏名) 古田 純

TEL 03-3273-3917

四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	301,334	0.1	24,422	10.8	25,163	15.2	17,008	1.9
29年3月期第1四半期	301,075	2.7	22,039	30.6	21,845	25.1	16,685	25.0

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 19,756百万円 (89.4%) 29年3月期第1四半期 10,431百万円 (56.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	116.80	
29年3月期第1四半期	113.34	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	891,714	454,612	50.1	3,077.85
29年3月期	883,895	457,190	50.8	3,064.91

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 446,887百万円 29年3月期 448,901百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		45.00		65.00	110.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		57.50		57.50	115.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 29年3月期期末配当金の内訳 普通配当45円00銭 創業100周年記念配当20円00銭

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	609,000	0.4	41,400	10.9	41,300	14.5	26,000	6.9	178.55
通期	1,261,000	1.5	94,500	6.9	95,000	6.9	61,000	0.4	418.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、[添付資料]10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期1Q	152,683,400 株	29年3月期	152,683,400 株
----------	---------------	--------	---------------

期末自己株式数

30年3月期1Q	7,488,424 株	29年3月期	6,218,500 株
----------	-------------	--------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

30年3月期1Q	145,621,459 株	29年3月期1Q	147,220,506 株
----------	---------------	----------	---------------

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算短信補足説明資料の入手方法について)

決算短信補足説明資料は決算短信に添付しTDnetで開示しております。また、当社ホームページにも同日掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益 (円 銭)
当第1四半期 連結累計期間	301,334	24,422	25,163	17,008	116.80
前第1四半期 連結累計期間	301,075	22,039	21,845	16,685	113.34
対前年同期 増減率(%)	0.1	10.8	15.2	1.9	-

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、雇用情勢の改善が続く中、個人消費や設備投資にも持ち直しの動きがみられるなど、緩やかな回復基調で推移しました。今後についても、引き続き成長が期待されるものの、海外経済の動向とその影響には注視していく必要があります。

こうした中、当社グループは2015-2017年度グループ中期経営計画「STEP UP 17」の最終年度を迎え、重点テーマ「成長の加速とさらなる収益性向上」に基づき、「優位事業の強化と新たな成長への挑戦」「環境変化に対応しうる収益力の強化」「グローバル展開の推進」「経営基盤の進化」に向けた取り組みを進めています。

食品セグメントでは、為替や原材料相場の変動により原材料調達コストの上昇を見込む中、引き続きコア商品の売上成長を図るとともに、生産・物流・販売の効率化とコスト削減を実行することで、着実な成長に向けて取り組んでいます。

医薬品セグメントでは、薬価制度の抜本改革に向けた議論が進み事業の予見性が難しくなる中、感染症治療薬・中枢神経系用薬の重点領域に経営資源を集中し、売上高・利益の最大化に努めています。また、2016年12月に設立したMeファルマ株式会社は、新たなビジネスモデルを構築することで、ジェネリック医薬品の事業拡大を図ってまいります。

当第1四半期連結累計期間の売上高は3,013億34百万円(前年同期比0.1%増)、営業利益は244億22百万円(同10.8%増)、経常利益は251億63百万円(同15.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は170億8百万円(同1.9%増)となりました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	連結 損益計算書 計上額
	食品	医薬品	計		
売上高	265,617	35,904	301,521	△186	301,334
営業利益	22,469	1,947	24,416	5	24,422

①食品セグメント

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	対前期 増減率(%)
売上高	267,676	265,617	△0.8
営業利益	22,011	22,469	2.1

売上高は、各事業が総じて前年同期並みとなった結果、全体でも前年同期並みとなりました。

営業利益は、発酵デイリー事業がヨーグルトの減収により前年同期を下回りましたが、チョコレートが伸長した菓子事業や、海外事業が前年同期を大幅に上回り、加工食品事業、栄養事業が前年同期を上回った結果、全体では前年同期を上回りました。

事業別の売り上げ概況は次のとおりです。

【発酵デイリー事業】 (ヨーグルト、牛乳類、飲料等)

- ・プロバイオティクスは前年同期並みとなりました。「明治プロビオヨーグルトR-1」は継続したコミュニケーション施策と売り場づくりの強化により大幅に伸長しました。
- ・「明治ブルガリアヨーグルト」は、前年同期における大幅な市場拡大の反動もあり、前年同期を下回りました。
- ・牛乳類は前年同期を上回りました。主力の「明治おいしい牛乳」は小容量タイプが需要の拡大により伸長し、また、2016年9月に九州地区で販売を開始して順次エリアを拡大している「明治おいしい牛乳(900ml)」も堅調に推移しました。

【加工食品事業】 (チーズ、バター・マーガリン、クリーム、アイスクリーム、冷凍食品等)

- ・市販チーズは、主力の「明治北海道十勝カマンベールチーズ」や「明治北海道十勝スマートチーズ」が好調に推移したことから、前年同期を上回りました。
- ・市販マーガリンは主力の「コーンソフト」が好調に推移したことから、前年同期を上回りました。
- ・アイスクリームは2017年4月からの取引制度変更の影響により前年同期を大幅に下回りましたが、主力の「明治エッセルスーパーカップ」は数量ベースで前年同期を上回りました。

【菓子事業】 (チョコレート、グミ、ガム等)

- ・チョコレートは前年同期を上回りました。カカオ豆の持つ健康効果への関心が高まる中、「チョコレート効果」シリーズに代表される健康志向チョコレートは、前年同期を大幅に上回りました。また、2016年9月に大幅リニューアルを実施したプレミアムチョコレートの「明治 ザ・チョコレート」は、既存品の伸長に加えて新商品の発売もあり、前年同期を大幅に上回りました。
- ・グミは主力ブランドである「果汁グミ」に加えて「ポイフル」などのブランドも伸長した結果、前年同期を上回りました。
- ・ガムは市場低迷の影響により前年同期を下回りました。

【栄養事業】 (スポーツ栄養、粉ミルク、流動食、美容、OTC等)

- ・スポーツ栄養は前年同期を大幅に上回りました。「ザバス」は競技者層に加えて、スタイルアップ層などの新規ユーザーの獲得が大きく寄与し前年同期を大幅に上回り、「ヴァーム」も新商品発売が寄与したことなどにより前年同期を上回りました。
- ・粉ミルクは出生数の減少に伴う市場の縮小に加え、インバウンド需要の減少により前年同期を大幅に下回りました。
- ・流動食は前年同期を上回りました。市販用の「明治メイバランスMiniカップ」は店頭での売り場づくりやプロモーション活動の強化が奏功し、前年同期を上回りました。
- ・美容は「アミノコラーゲン」が前年同期を大幅に下回りました。

【その他事業】 (海外、飼料、畜産品、砂糖および糖化穀粉、運送等)

〔海外〕

- ・輸出事業では、粉ミルクは台湾向けを中心に好調に推移するとともに、アミノコラーゲンも台湾やタイ向けが大幅に伸長しました。
- ・中国では、菓子事業は主力のチョコレートが伸長し前年同期を上回り、牛乳・ヨーグルト事業は市販用・業務用ともに伸長したことから前年同期を上回りました。また、アイスクリーム事業は店頭での売り場づくりの強化に取り組んだ結果、前年同期を大幅に上回りました。
- ・米国では、好調な現地ブランド品に加えて「ハローバンダ」などの明治ブランド品のチョコスナックが大幅に伸長した結果、前年同期を上回りました。

〔その他〕

- ・国内では、2016年8月の北海道における台風被害の影響により、一部子会社が大幅な減収となりましたが、物流子会社の事業拡大などもあり全体では前年同期並みとなりました。

②医薬品セグメント

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	対前期 増減率(%)
売上高	33,716	35,904	6.5
営業利益	16	1,947	11,900.3

売上高は前年同期を上回りました。国内医療用医薬品事業は先発医薬品、ジェネリック医薬品ともに伸長し前年同期を上回りましたが、生物産業事業は前年同期を下回りました。

営業利益は、各事業のコストコントロールの取り組みに加え、前年同期に新薬普及費用が発生した反動などもあり、前年同期を大幅に上回りました。

事業別の売り上げ概況は次のとおりです。

【医療用医薬品事業】

〔国内〕

- ・感染症治療薬では、抗菌薬「メイアクト」は市場におけるジェネリック製品の浸透が進んだことにより、前年同期を大幅に下回りました。
- ・中枢神経系用薬では、主力の抗うつ薬「リフレックス」は前年同期を下回りました。一方、2016年5月に発売した統合失調症治療薬「シクレスト」は、期初から堅調に推移した結果、前年同期を大幅に上回りました。
- ・ジェネリック医薬品は前年同期を大幅に上回りました。主力の高血圧症治療薬「アムロジピン錠 明治」は前年同期を下回りましたが、抗菌薬「タゾピペ配合静注用 明治」は前年同期を大幅に上回りました。
- ・2017年3月にエーザイ株式会社との間で締結したパーキンソン病治療薬「サフィナミド」に関するライセンス契約に基づき、マイルストーン収入を計上しました。

〔海外〕

- ・輸出事業では、主力の「メイアクト」が前年同期を大幅に下回りました。
- ・インドのメドライク社や中国の明治医薬山東社は前年同期を大幅に上回りました。

【生物産業事業】 (農薬・動物薬)

- ・農薬は、茎葉処理除草剤「ザクサ液剤」が前年同期を大幅に上回りましたが、主力のいもち病防除剤「オリゼメート」が前年同期を大幅に下回り、全体では前年同期を下回りました。
- ・動物薬は、コンパニオンアニマル用薬および水産用薬が前年同期を大幅に下回り、家畜用薬が前年同期を下回った結果、全体では前年同期を下回りました。

(2) 財政状態に関する説明

〔資産〕

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は8,917億14百万円となり、前連結会計年度末に比べて78億18百万円増加しました。これは受取手形及び売掛金が91億51百万円、機械装置及び運搬具(純額)が27億71百万円、現金及び預金が25億48百万円減少した一方、建設仮勘定が92億37百万円、投資有価証券が63億38百万円、商品及び製品が33億15百万円、原材料及び貯蔵品が32億66百万円増加したことなどによるものです。

〔負債〕

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は4,371億1百万円となり、前連結会計年度末に比べて103億96百万円増加しました。これは未払法人税等が93億82百万円、賞与引当金が51億62百万円減少した一方、コマーシャル・ペーパーが250億円増加したことなどによるものです。

〔純資産〕

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は4,546億12百万円となり、前連結会計年度末に比べて25億78百万円減少しました。これは利益剰余金が74億88百万円、その他有価証券評価差額金が35億25百万円増加した一方、自己株式が120億6百万円、為替換算調整勘定が15億32百万円減少したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は50.1%(前連結会計年度末は50.8%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年5月12日の「平成29年3月期決算短信」で公表いたしました平成30年3月期の連結業績予想数値は変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,761	22,213
受取手形及び売掛金	183,807	174,655
商品及び製品	88,524	91,839
仕掛品	4,114	4,411
原材料及び貯蔵品	41,596	44,862
その他	35,274	35,445
貸倒引当金	△370	△236
流動資産合計	377,707	373,192
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	301,158	302,095
減価償却累計額	△172,253	△172,910
建物及び構築物(純額)	128,904	129,185
機械装置及び運搬具	501,254	499,459
減価償却累計額	△372,520	△373,496
機械装置及び運搬具(純額)	128,734	125,963
工具、器具及び備品	52,383	52,628
減価償却累計額	△42,204	△42,387
工具、器具及び備品(純額)	10,178	10,241
土地	72,603	72,584
リース資産	3,972	3,160
減価償却累計額	△3,140	△2,401
リース資産(純額)	832	759
建設仮勘定	24,733	33,970
有形固定資産合計	365,986	372,704
無形固定資産		
のれん	12,840	12,405
その他	13,096	12,630
無形固定資産合計	25,936	25,035
投資その他の資産		
投資有価証券	77,862	84,200
退職給付に係る資産	20,418	20,841
その他	16,092	15,847
貸倒引当金	△107	△107
投資その他の資産合計	114,264	120,781
固定資産合計	506,187	518,521
資産合計	883,895	891,714

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	110,730	109,393
短期借入金	50,574	50,397
1年内償還予定の社債	30,000	30,000
コマーシャル・ペーパー	-	25,000
未払法人税等	17,457	8,074
賞与引当金	10,512	5,350
返品調整引当金	132	130
売上割戻引当金	2,061	1,765
その他	92,722	91,876
流動負債合計	314,191	321,988
固定負債		
長期借入金	48,923	50,105
退職給付に係る負債	48,371	48,532
役員退職慰労引当金	150	137
その他	15,067	16,338
固定負債合計	112,513	115,113
負債合計	426,704	437,101
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	99,762	99,622
利益剰余金	322,856	330,344
自己株式	△16,607	△28,614
株主資本合計	436,011	431,352
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25,120	28,646
繰延ヘッジ損益	△5	25
為替換算調整勘定	1,181	△351
退職給付に係る調整累計額	△13,406	△12,785
その他の包括利益累計額合計	12,890	15,535
非支配株主持分	8,289	7,724
純資産合計	457,190	454,612
負債純資産合計	883,895	891,714

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	301,075	301,334
売上原価	191,278	191,678
売上総利益	109,796	109,656
販売費及び一般管理費	87,756	85,234
営業利益	22,039	24,422
営業外収益		
受取利息	28	32
受取配当金	578	584
持分法による投資利益	28	119
為替差益	-	107
その他	270	325
営業外収益合計	906	1,170
営業外費用		
支払利息	211	193
為替差損	664	-
その他	225	235
営業外費用合計	1,100	429
経常利益	21,845	25,163
特別利益		
固定資産売却益	5,062	643
子会社清算益	-	464
その他	227	34
特別利益合計	5,289	1,143
特別損失		
固定資産廃棄損	364	1,017
減損損失	-	114
その他	44	11
特別損失合計	408	1,142
税金等調整前四半期純利益	26,726	25,163
法人税等	9,772	7,991
四半期純利益	16,953	17,171
非支配株主に帰属する四半期純利益	267	163
親会社株主に帰属する四半期純利益	16,685	17,008

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純利益	16,953	17,171
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,213	3,522
繰延ヘッジ損益	△215	31
為替換算調整勘定	△4,520	△1,845
退職給付に係る調整額	707	621
持分法適用会社に対する持分相当額	△280	255
その他の包括利益合計	△6,521	2,585
四半期包括利益	10,431	19,756
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,259	19,653
非支配株主に係る四半期包括利益	172	103

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	267,596	33,478	301,075	-	301,075
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	79	237	317	△317	-
計	267,676	33,716	301,392	△317	301,075
セグメント利益	22,011	16	22,027	12	22,039

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額12百万円には、セグメント間取引消去53百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△41百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	265,522	35,812	301,334	-	301,334
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	94	92	186	△186	-
計	265,617	35,904	301,521	△186	301,334
セグメント利益	22,469	1,947	24,416	5	24,422

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額5百万円には、セグメント間取引消去4百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用1百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。